



## 大方文学学級文芸誌

# 「大方」300号発刊へ

### 昭和40年から半世紀余をかけて今秋達成！

『万葉集古義』の名著で知られる鹿持雅澄の作品には、しばしば「大方」の代わりに「大方」が当てられています。この手法で名づけられ、昭和40年7月に創刊された地域総合文芸誌「大方」が、多くの関係者の不断のご努力により受け継がれ、今秋300号という大きな節目を迎えました。なお、町もこの活動に敬意を表し、記念行事費の一部を補助することとしています。

9月下旬、300号に向けての編集最中にお伺いしました。

創刊当時から参加しているという宮川昭男代表によると、現在、70人ほどで活動し、2カ月に1回のペースで年6回の出版をしているとのこと。また、「大方」の「創刊の言葉」の一部、「われわれの『大方』が生まれた。大方の野に山に里に海にはぐくまれて行く人々に、輝きとそして一つのいのちの糧を注ぎこもうために」の創刊者たちの意気込みと使命感は、脈々と受け継がれ、300号記念誌の巻頭言「歴史をつなぐ」には次のように記述されています。

「私たちの『大方』が長寿の雑誌となり得たのはなぜだろう。それは一にも二にも志を同じくする仲間がいたからだ。そして、お互いの信頼を基としつつ、個々の作品の向上を図ってきたからにちがいない」  
今後、この伝統を受け継ぎ、仲間と共に努力精進し合って行きたいとのことでした。

創刊当時の「大方」。表紙は全て手描きだったとのこと



300号記念誌編集中のみなさん。中央奥が宮川昭男代表（9月29日 大方あかつき館）

## 新庁舎 完成間近です！



11月上旬の完成を目指し、工事も最終段階に（H28年10月3日）